

5-B分科会 研究課題 「教職員の専門性に関する課題B」

研究主題 「教職員の資質・能力を向上させるための教頭としての関わり」
宮崎支会

1 主題設定の理由

令和2年度から全面実施された新学習指導要領は、子どもたちが自ら学び、考え、判断し行動することによって様々な社会的変化を乗り越えられるたくましい大人に育つことを目指している。子どもたちにそのような「生きる力」を育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が不可欠である。

「みやざきの教育に関する調査」（平成30年度実施）においても、教職員向けの調査の中で、「教師の資質や姿勢で特に大事だと思うことは、何ですか」という設問に対して、1番目に多かったのが「子どものよい面をのびし、やる気を出させる」、2番目が「よくわかる教え方をする」であった。この回答からも教師自身が高い授業力・指導力を求めていることが分かる。

宮崎県全体としても、児童生徒の学力向上、教職員の授業力向上は喫緊の課題となっている。各学校においても、職員研修等とおして教員の授業力向上の取組を進めているが、限られた職員研修の時間では限界がある。授業力向上という学校全体で取り組むべきテーマに対して日常的に改善を図っていくためには、汎用性が高くリーダーシップを発揮しやすい教頭に求められる役割は大きいと言える。

そこで、教員の資質・能力の向上について、特に授業力を向上させるための教頭としての関わりや取組を検証するために本主題を設定した。

2 研究のねらい

教員の資質・能力の向上について、特に授業力を向上させるための教頭としての関わりを調査・検証し、教頭としてのよりよい関わり方を究明する。

3 研究の概要（実際）

(1) 研究の内容

- ① 授業力向上に向けての教頭の関わり方の調査
- ② 参観シートを活用した教頭としての関わり

(2) 研究の実際

- ① 授業力向上に向けての教頭の関わり方の調査
「授業力向上に向けて教頭としてどのような取組をしているのか」について、「授業改善の視点の活用」、「教職員評価の活用」、「組織的な取組」、「校外研修の活用」等の視点からの質問を宮崎市内外小・中学校の教頭（小5 2名、中2 7名、計7 9名）に行い調査を実施した。
その一部は、次のとおりである。

観点	設問	割合 (%)
授業改善	校内や個人の授業改善の視点を明確にもたせて積極的に評価を行い、指導助言を行っている。	25.8
視点の活用	「授業改善の4+4のチェックポイント」（県教委）に焦点をしばって、授業参観及び授業者への指導助言を行っている。	43.5
活用の活用	職員の授業を積極的に参観し、口頭または参観シート等を活用して、指導助言を適宜行っている。	32.3
評価の活用	教職員評価（中間ミーティングやフィードバック等）を活用して、日々の授業を振り返らせ、授業改善の課題や意欲をもたせている。	59.7
組織的な取組	研究主任、教務主任等と連携を図り、校内研究の成果が挙げられるよう積極的に助言している。	56.5
	教職員の教材研究の時間を確保するために、教務主任等と連携しながら会議の精選を積極的に図っている。	51.6
校外研修の活用	スーパーティーチャーや他校の研究公開等について職員に積極的に紹介し、校外研修への参加を促している。	56.5
	校外の研修会への参加職員の人選について、職員の資質・能力を考慮して適材適所となるよう、積極的に調整している。	61.3

調査の結果から、授業改善の視点を活用しての指導助言が、少ないことが分かった。

そこで、授業改善の視点の内容を明確にする等参観シートの工夫・作成を行い、教職員の資質向上を図ることにした。

② 参観シートを活用した教頭としての関わり

ア 参観シートの作成

参観シートは、学校の実態を考慮し各学校で作成した。シート内の参観の視点は、「授業改善の4+4のチェックポイント」、「宮崎市の授業スタンダード」、「学校の主題研究」を基に各学校で定めた。例えば、「宮崎市の授業スタンダード」を基にした学校では、「時間管理」、「内容の精選等」、「発問・指示」、「板書の工夫」、「整合性」、「教材の工夫等」、「見届け・評価」、「習熟の時間の確保」、「学習形態の工夫」、「個に応じた指導」の10項目の視点を定め評価を行っ

た。

特に、能力育成期（1～5年）ファーストステージ対象者には、きめ細かな評価になるよう具体的な視点を設定して参観を行った。【資料1】

また、評価については、レーダーチャートにして、視覚的に改善点を分かりやすくしたり、教頭を含めた複数人による評価にしたり、授業者に自己評価を行わせて他者評価と比較させたりと各学校で工夫した参観シートを活用し取組を行った。【資料2】

イ 参観シートの活用と授業力向上

作成した参観シートについては、参観前に授業者に知らせ指導案作成や実際の授業で生かせるようにした。

授業後に渡した参観シートに関して授業者からは、

- 観点別に細かく評価され改善点が分かりやすい。
- 数値とレーダーチャートによる評価で自分に必要な技能が一目で分かる。
- 視点が細かく、大変分かりやすい。
- 自己評価と他者評価の相関関係が、レーダーチャートで視覚的に見えるため、客観的な自己分析ができ、授業改善への意識が高まった。

等の感想が寄せられ、授業力向上・授業改善につながる感想がほとんどであった。しかし、

- 数値が低い部分については、具体的なコメントがほしい。

等の意見もあり、数値での評価の場合は評価を説明するための記述が重要であることも分かった。

【資料1】
 授業参観シート 令和2年 月 日()
 年 組 教科【 】 授業者【 】

keyword	具体的な視点	4つのCP				評価	平均
		1	2	3	4		
目標・めあて・まとめ	① 本時のゴールイメージ（目指す子供の姿）が明確	○				3	3.0
	② 本時の目標とめあてが一致	○				3	
	③ めあてとまとめの整合性	○	○			3	
	④ めあてが簡潔で分かりやすい			○	○	3	
評価	⑤ 何を、どこで、どのように評価するかが明確	○				3	3.0
	⑥ 一人一人の評価（見逃げ）	○				3	
定着・習熟	⑦ 定着や習熟、振り返りの時間の確保（10分以上）、授業の完結	○				3	3.0
	⑧ 意に応じた指導の工夫（定着・習熟を促す指導の連携等）	○				3	
	⑨ 振り返りでのアウトプット（書く・話す）	○				3	
	⑩ 定着や習熟の時間の確保（即時性や匿名子ターゲット）		○			3	
指導内容	⑪ 学級の集約（学力増進等）や内容に即した指導内容の精選	○	○			3	3.0
	⑫ 教える内容と考えさせる内容の明確化・精選	○				3	
	⑬ 意図的・目的の明確化・精選（授業のよさに書き加えたい点があれば記入する）	○				3	
指導方法	⑭ ターゲットは平均を下回る子供		○			3	3.0
	⑮ 基礎的・基本的な内容の習得を重視した指導		○			3	
	⑯ スモールステップによる段階的な指導		○			3	
指示・発問	⑰ 板書（精選・構造的）		○			3	3.0
	⑱ ITCの活用（視覚的）		○			3	
	⑲ 指示・発問の精選		○			3	
テンポや間	⑳ 子供の反応に対する切り返しや補助発問の準備		○			3	3.0
	㉑ 導入のテンポ（5分以内）		○			3	
	㉒ 意図的指名による学習の焦点化		○			3	
音量・話し方	㉓ 中心発問後の、考えさせる「間」		○			3	3.0
	㉔ 音量の強化や弱、抑揚					3	
	㉕ 目標、立つ位置の変化					3	

評価

【授業者反省】

【コメント】

4 成果と課題

(1) 成果

○ 参観シートを基に、事後研究会等で、職員全体で具体的な授業改善の手立てについて意見を深めることができ、授業者だけではなく、職員全体の授業力向上につながった。

○ 参観シートが職員とのコミュニケーションを深めるツールの一つになった。記述式の参観シートを活用した学校では、授業者に授業以外の学級経営、校務分掌等の自由記述欄を設け教頭が助言を行ったところ、人材育成の面でも役立てることができていた。

○ 参観シートを活用することで、職員の授業力向上・授業改善の意識を高めることができ、教職員としての資質の向上につながることができた。

(2) 課題

○ 能力育成期（1～5年）ファーストステージ対象者については、細かな視点で評価を行わなければ、基本的な指導力を高めることができない。また、特別の教科道徳等授業内容によっては、作成したシートの視点が当てはまらない場合がある。画一的な評価スタイルではなく、ケースに応じて複合型の授業診断（評価）が求められる。

○ 1度の授業参観での評価だけでは、授業力向上には、つながらない。継続して評価を行うことが、人材育成にもつながる。

○ 参観シートでのやり取りは、回数が限られている。教頭として日頃から積極的に職員とのコミュニケーションを図ることが重要である。

【資料2】 授業診断【総括シート】 授業日: 参観者: ()
 「自己評価・他者評価」 授業者: 教科

評価の観点: 「4」よくできた 「3」できた 「2」やや改善の必要がある 「1」改善の必要がある

No	具体的な視点	自己評価	他者評価
1	整合性 教師は、「めあて」と「まとめ」の整合性のある指導を行っているか？	3.0	3.5
2	テンポや間 教師は、指導の内容を精選し、テンポや間に配慮して授業を進めているか？	3.0	3.4
3	授業内容 教師は、授業内容を児童の実態に即して授業改善しているか？	3.0	3.1
4	指示や発問 教師は、指示や発問が児童に伝わるように工夫しているか？	3.0	3.2
5	見通し 児童は、学ぶことに興味・関心をもち、見通しをもって学習に取り組んでいるか？	3.0	2.8
6	振り返り 児童は、学習内容や学び方を振り返って、次につなげようとしているか？	2.0	2.5
7	話し合い 児童は、生き生きと教師や友達との話し合い活動に参加しているか？	3.0	2.5
8	考えの深化 児童は、対話を通して、自分の気持ちや考えを広げているか？	2.0	2.5
9	活用 児童は、以前学んだことを本時の学びに生かそうとしているか？	2.0	2.6
10	言語活動 児童は、自分の言葉で学んだことを表現しているか？	2.0	2.6

【ご意見、改善策は、次の色の付箋紙に書いておいてください】

赤い付箋紙 4・4…白い付箋紙 主体的な学び…赤い付箋紙
 対話的な学び…青い付箋紙 深い学び…黄色い付箋紙